

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2024年
3月4日
第162号



サクランボ（バラ科）

今、温室前の鉢植えで花を咲かせています。この株は果樹として園芸店から苗を購入したもののなので、種の確定が出来ていませんが、おそらくセイヨウミザクラと思われます。バラ科スモモ属には、その下の分類としてサクラ亜属、スモモ亜属とモモ亜属に分けられ、セイヨウミザクラは、ソメイヨシノ、ヤマザクラと同じサクラ亜属に属し、スモモ、ウメ、アンズなどがスモモ亜属、モモとアーモンドがモモ亜属に属するそうです。果物として流通するサクランボは、中国語で「桜桃」と称し、『本草綱目』では「桜桃」の生薬名で、調中、益脾、止痢の効能があることになっていますが、中国語の植物名としての「桜桃」はスモモ属全般を指し、セイヨウミザクラの中国語名ではわざわざ「欧州甜桜桃」と称しているのです。『本草綱目』にある「桜桃」はセイヨウミザクラとは異なる植物種を基原にしているでしょうね。

カイソウ（キジカクシ科）

今、温室の前の鉢植えで花を咲かせています。エングラマー、クロンキスト体系ではユリ科に属していましたが、現在ではキジカクシ科（別名クサスギカズラ科）に属する、南ヨーロッパ、北アフリカ原産の植物です。カイソウを漢字で書くと「海葱」で、地面にタマネギのような卵形の鱗茎が見られます。鱗茎が生薬の「カイソウ」となり、紀元前からエジプトやギリシャで利用され、かつての『日本薬局方』にも収載されていましたが、1951年の第六改正から削除されています。強心配糖体を含む、利尿、去痰、催吐、強心を目的に使用されていましたが、強い毒性のために現在では生薬としては使用されず、むしろ毒性を利用した殺鼠剤や農薬として用いられたこともあります。日本では園芸植物としても利用されており、注意が必要な毒草です。